#### 症例 8:

MTA を用いて、歯の根に開いている穴を修復(パーフォレーションリペア)して歯を保存したケース

### ポイント

歯の根に穴が開いてしまうと、そこから細菌(バクテリア)が継続的に侵入し周囲の骨を溶かして病巣を作ってしまいます。歯肉が腫れたり出血したり痛みを伴ったりします。 通常抜歯しなければならいないケースでも、MTAを用いて穴を封鎖することで歯を残すことが可能となります。

#### 診査

### 初診時口腔内写真

患者さんは、左上奥歯の歯の根元が時々腫れて、自然に治っては、また腫れることを繰り返 しているのが心配で、診てほしいということで来院されました。



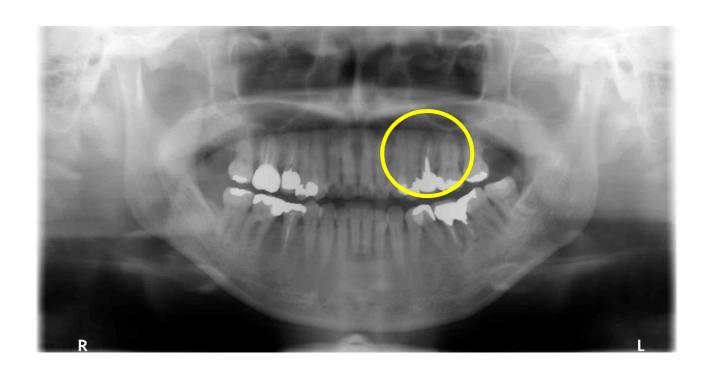






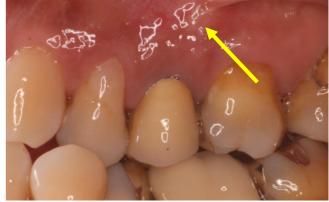
## 初診時パノラマエックス線

左上5番目の小臼歯の根の先端に病巣 (レントゲンでは黒い影) が確認できます。



デンタルエックス線で細かく見てみると明らかに大きな病巣が確認できます。 初診時、慢性的に落ち着いているため、外見ではなんともなさそうですが、また急性化して 腫れることが予想されます。





CT撮影で、さらに詳細を診査します。



明らかに、左上 5 番目の小臼歯の根尖部の骨は吸収し、頬っぺた側の骨の壁は無くなっています。

急性化して膿が溜まると、頬っぺた側の歯の根元の歯肉が腫れてくる原因はこのためです。

また金属の土台の芯 (ポスト) が 2 本あり、一つは舌側の歯根を貫通して飛び出ています。 歯根に穴が開いている状態で、舌側の周囲の骨の壁も吸収して無くなっています。

冠と土台を外して根の中の状態を診査してみます。



冠を外しました。



土台も外しました





# 虫歯を除去します。



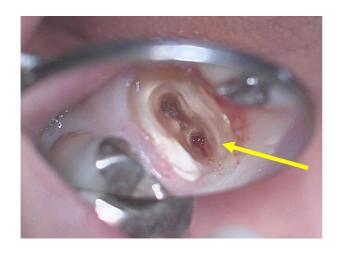
虫歯を染める染色液でさらに確認します。



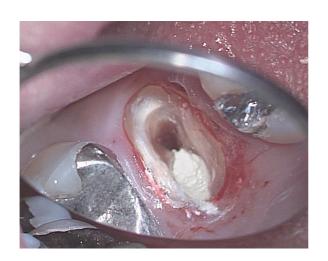
赤く染まっているところが虫歯です。さらに虫歯を除去します。



舌側の金属土台の芯 (ポスト) が歯根を貫通しているため、穴が開いて出血していることが確認できます。



MTA を用いて、穴を修復します。



一週間後に、MTA がしっかり硬化していることを確認します。



根管治療を行うため、再感染しないようにレジン樹脂で壁(隔壁)を作ります。



歯の周りにラバーをかけて、根管内の洗浄消毒を行います。



根管内をきれいにするため、針のような物 (ニッケルチタンファイル) を用いて、丁寧に拡 大清掃をします。





根管内がきれいになったところで、MTAシーラーを用いて封鎖します。



歯根の強度を補強するため、ファイバーの芯(ポスト)を築盛し、仮歯を作ります。





仮歯が入りました。



その後、歯の型を取り、技工士さんがセラミッククラウンを作成します。



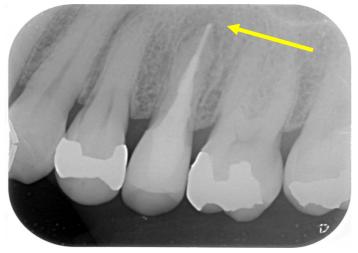
お口の中にセラミッククラウンが入りました。







半年後の経過です。 根尖部の病巣も無くなりました。





# CT 撮影で詳細な確認です。



根尖部の頬っぺた側の骨の壁も回復しました。